

人間科学部 児童教育学科(※2023年度より適用)

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー(編成方針)	
共通科目 (全学統一)	A-1	幅広い学問領域の基本的な概念や理論を修得し、教養としての知識・技能を身に付けることで、社会事象を多面的に理解することができる。	主に人文科学、社会科学および自然科学の各分野を中心とした、学問の基本的な概念や理論を修得するための科目を、選択必修として1年次から配置する。
	B-1	学びや研究の基盤となる思考力・判断力・表現力等を獲得し、幅広い領域に活用することができる。	リテラシー領域を設け、学びと研究の基盤となる思考力・判断力・表現力を修得するための科目を、必修および選択必修として1年次および2年次を中心に配置する。
	C-1	修得した資質・能力を主体的に活用し、多様な人々と協働しながら実際の課題に取り組み、創造的に課題解決に向かうことができる。	実習、演習、インターンシップ、ボランティアなどを中心とした、創造的に思考する力や他者と協働する力を修得するための基礎から発展への科目を、1年次から段階的に配置する。
	D-1	社会的課題やそれに対する学習・研究を通して、我々の生き方の指針を深く考え、自律的に真理を探究し続けることができる。	ライフデザイン領域を設け、生き方の指針および学び続ける態度を修得するための科目を、必修および選択必修として1年次および2年次を中心に配置する。
専攻科目	A-2	保育学・教育学及び関連する分野の基本的な概念や理論を修得し、知識と技能を身につけることで、社会事象を専門的見地から理解することができる。	「保育・福祉に関する科目」や「教育・心理に関する科目」等を中心に、保育・教育分野の基本的知識及び技能を修得するための科目を1年次より系統的・段階的に配置し、また現実場面で実践できる能力を身に付けるための科目を2年次より系統的・段階的に配置する。
	B-2	保育・教育の対象としての幼児・児童の理解、内容・方法の活用に関する理解、及び関わる人々の共同体の一員としての相互理解の下、適切に判断し行動することができる。	「保育・福祉に関する科目」や「教育・心理に関する科目」及び「教科研究に関する科目」等を中心に、幼児・児童の育ちと学びに係る実際の支援に必要な応用的能力とともに広汎なコミュニケーション能力等を身に付けるための科目を2年次より系統的・段階的に配置する。
	C-2	修得した資質・能力を活用し、社会実践に主体的に参画して、多様な人々と協働しながら任務を遂行することができる。	「保育実習」「教育実習」「教職実践演習」「演習・卒業論文に関する科目」等を中心に、保育・教育に関する現象の中から解決すべき課題を自ら発見し、そのための道筋を構想することができる能力を身に付けるための科目や実践力を身に付けるための科目を3、4年次を中心に配置する。
	D-2	保育・教育の分野を中心に、学問や社会の基本原則や真理について、自律的に探究することができる。	「演習・卒業論文に関する科目」及び専門科目の選択科目等を中心に、自律的な修学意欲や興味に応じて学びを深めるための科目や保育・教育分野の学問的意義や職業的使命感・倫理観・責任感を継続的に考究するための科目を3,4年次を中心に配置する。

【ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの各カテゴリー】

- A:知識・技能
- B:思考力・判断力・表現力等
- C:総合的な学修経験・創造性
- D:態度・志向性

カリキュラム・ポリシー(実施方針)

- ①保育・教育分野の教育課程の編成を踏まえて配置された各授業の教育内容に応じ、下記の4項目に示す授業形態を採る。
 - 知識・理論及び汎用的な技能等の修得を目的とする教育内容に関しては、講義形式を主とした授業を以て行う。
 - 思考力・判断力・表現力等の修得を目的とする教育内容に関しては、演習形式を主とした授業を以て行う。
 - 現実場面や実務等に即した実践力の修得を目的とする教育内容に関しては、実習・実技・実験形式を主とした授業を以て行う。
 - 主体的に課題を発見し解決しようとする意欲や生涯にわたる自律的な修学態度等の修得を目的とする教育内容に関しては、演習形式を主とした授業のほか、卒業論文の執筆・発表や卒業研究の公演・発表等の場を以て行う。
- ②各授業の教育内容に応じ、演習科目や保育内容・指導法及び教科内容・指導法などに関する科目を中心に少人数で学修を行い、調査・報告・討論や模擬的実践・検証、また実験・実習等を活用する教授方法を用いる。

1. 求める学生像

児童教育学科は、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた者を求める。

[知識・技能]

- ① 高等学校で履修する教科・科目の内容を幅広く理解し、高等学校卒業相当の知識・技能を有する者
- ② 自分をとりまく諸世界(人間・社会・自然など)について学ぶことに関心を持ち、それらに対する基礎的知識・技能を有する者

[思考力・判断力・表現力等の能力]

- ① 知識・技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を有する者
- ② 保育・教育活動に幅広く関わる内容への基本的な学習能力を有する者
- ③ 事象を客観的に観察し、事実に基づく論理・判断を適切に表現する能力を有する者

[目的意識・意欲]

- ① 子どもの保育・教育に関心があり、将来、保育・教育の現場で活動することに意欲的な者
- ② 社会性、規範意識があり、人や社会と関わることに意欲的な者
- ③ 多様な価値観・文化背景を理解し、高い協働性を有する者

2. 選抜方法

児童教育学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

(1) 一般選抜(一般入試、英語4技能利用型一般入試、大学入学共通テスト利用入試(前期・後期)、一般・共通テスト併用型入試)

高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。また、一般・共通テスト併用型入試では、合否判定に利用する科目として、大学入学共通テストから必ず数学または理科を採用することなど、児童教育学科において専門知識を修得するための理数的能力を有しているかについても併せて評価する。

(2) 総合型選抜(総合型入試)

総合型入試では、英語の資格・検定試験のスコアを出願資格に加えることにより、語学力を有する者を評価する。出願時の学修計画書等により書類選考を行ったうえで、グループディスカッション及び面接を踏まえ、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的・多面的に判定する。

(3) 学校推薦型選抜(指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試)

学校推薦型選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。入試では受験者に小論文と面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の目的意識・意欲、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

(4) その他の選抜(外国人入試、帰国生入試、国際バカロレア入試)

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接、帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の目的意識・意欲、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。国際バカロレア入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の目的意識・意欲、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。